

第30回NHラボセミナー

「よい音を求めて」

2019年4月12日
NHラボ(株)

音楽ソフトの制作現場

2019年4月12日
スタジオ アトリオ
田中三一

田中三一氏 略歴

1969年7月CBS/SONY(現ソニーミュージックエンタメント)入社。
定年退職後Bernie Grundman MASTERING TOKYO(2003年3月～2015年9月)
2016年1月現在のstudioATLIOを立ち上げ現在に至る。

ソニーミュージック時代はアルバム・シングル年間およそ200枚の制作に、また
およそ100枚のBGMアルバムに関わる。

代表作

ソニーミュージック時代

Lプレコードアルバム

○吉田拓郎「元気です」

○山口百恵「百恵白書」

○渡辺真知子「海に連れて行って」

スタジオアトリオ

○三大ヴァイオリニストでゴールドディスク

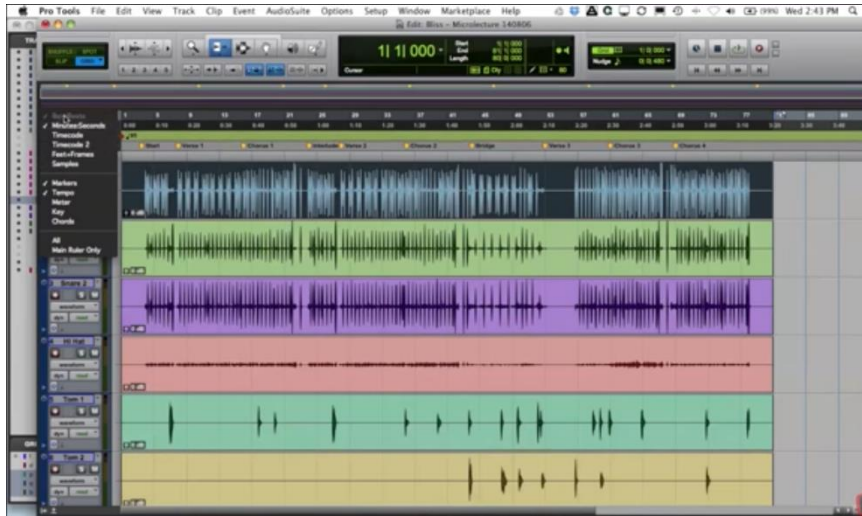
○ママレードラグ 第25回日本プロ音楽録音賞、優秀賞

制作プロセス

Recording	Mix	Mastering
Live	Protools	CD
DTM(DeskTopMusic)	Cuebase	SACD
	Logic	Streaming
	Studio One	Vinyl
	Nuendo	DVD
	MOTU Digital Performer	
	Ableton Live	
	SONY, TASCAM . . .	
	Pyramix	
	Fairlight CMI	

「機械」の音源 アレンジ、ミックスはどうなっている？

20秒のCMソングを試聴。
このCMについて別なミックスがあり、違いが出る。
二つのミックスを比較試聴。



セッションデータ画面

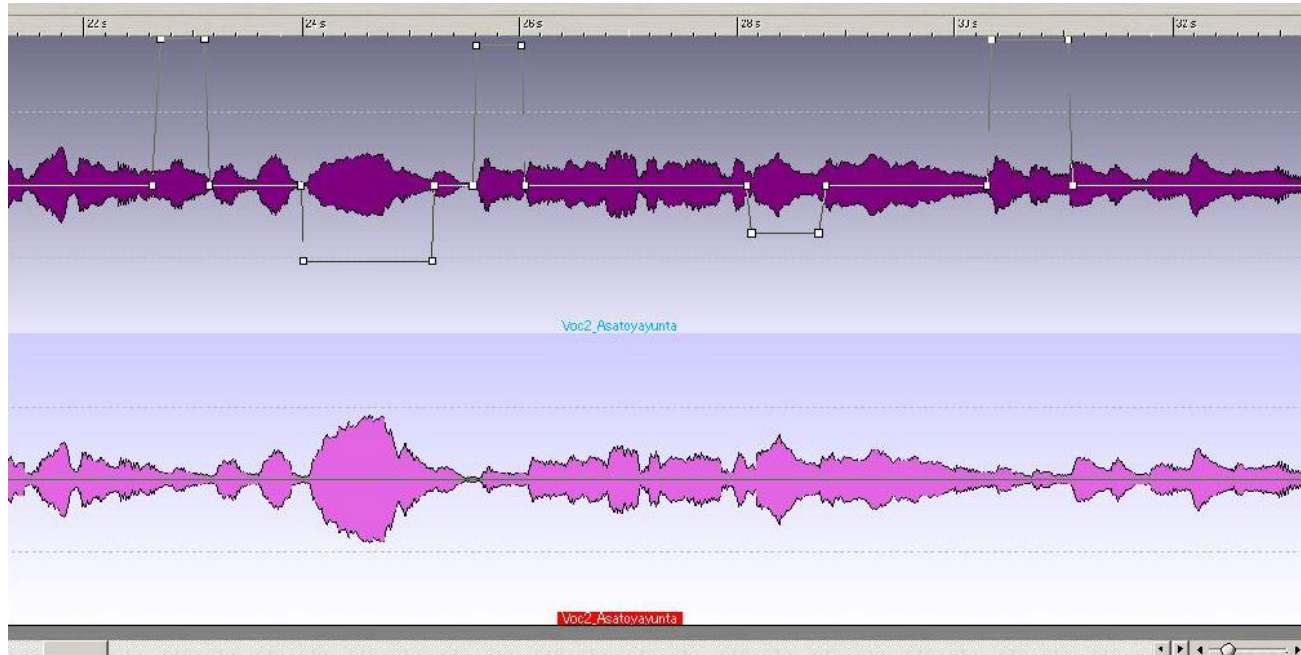


セッション + EQ + Fab Filter

ヴォーカル処理

制作現場では「オートメーション」、「書く」といって、
図のようにレベル修正を行う。

処理後の
波形



録音波形

Vocal Edit オートメーション

Summary

70年代、山口百恵、吉田拓郎、渡辺真知子、フォーリーブスなど
夢中でレコーディングやってきたが、
いつも憧れていたのが作曲家筒美京平さん。

ある時彼が一番信頼をおいていたエンジニア内沼さんが
筒美さんのドキュメンタリー番組で筒美さんから
「いい音と売れる音とは違う」と言われたシーンが印象的で、
振り返ってみれば確かにそうだったと今も思う。

当時から技術が格段に進み、ハイレンジで聴く環境が身近になりました。
私の追いかけている「魅力的な音」で聴ける良い環境になったと思います。

本当？のクライオ処理と よい音vs自然な音

2019年4月12日
オーディオ研究家
須崎規泰

須崎規泰氏 略歴

1997年より勤務中のガス会社の化成品部門にて接着剤製造に従事。

仕事中也常に音質改善のアイデアを思案中（ひとりごと、）。

子供の頃からオーディオ好きで30年以上続けるも望む音が出ず挫折しかける。

が、、、数年前よりソーラーパネルを電源としたシステムを構築。

残響分離制御ユニット[BM-1](#)と[MQA-CD](#)の効果と相まって、

満足できる音に到達した。

アジェンダ

1. クライオ処理について
2. ソーラパネル電源オーディオのご提案
3. 自然な音、よい音
4. 比較試聴機器

自然な音、よい音

一般的に言われている「良い音」、？

- ・メーカー製の高級機の音が「良い音」と仮定し、今回は高級プリメインアンプを基準にいたします。

はじめに・・・須崎の考える仮説として

1. メーカーは、ユーザーや評論家などが求めている音質を、メーカー独自の音色を加えつつ具現化しているように見えます。
2. 現状として、メーカーは原音再生を目指しているようには感じられず、或いは原音再生を目指しても商売だから売れる音を提供せざるを得ない。
3. 良い音は須崎が聴くと、長く聴くには無理があり聴いていて疲れるし、どうも原音とは違う機械臭さが気になって仕方ない。
4. 例えばゼンマイ仕掛けのオルゴールを聴くと、なんとも言えない優しさや鮮明さがあり、身体の緊張がほぐれて気分が良い。
5. 楽器も同様で疲れる度合いがオーディオよりも遥かに少なく感じる。